

オンラインセミナー「ステイ・ニュータウンで再発見！」第1回

「千里で出会える素敵な鳥たち」

2021年3月7日(日)14:00-15:30

お話: 平軍二さん(日本野鳥の会)

聞き手: 奥居武(千里ニュータウン研究者)

奥居

「ステイ・ニュータウンで再発見！」第1回「千里で出会える素敵な鳥たち」をお届けします。私は千里ニュータウンで育って50年以上住んでおります奥居と申します。

今日は、千里で野鳥のことといえばこの方、平軍二(ひらぐんじ)さんにお越しいただきました。「日本野鳥の会」の会員であり、すいた市民環境会議のメンバーとしてもご活躍。「千里タイムズ」でも長年にわたり野鳥の連載を持っておられます。

平(ひら)

今日は私のわかること、知っていることとお話ししたいと思いますので、よろしくお願ひします。

奥居

私は千里育ちですがまったく自然のことは疎い超初心者です。詳しい方からすれば「何を言っているんだ」という質問をするかもしれませんが、初歩的なところからお話を伺っていただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

冬から春へ…

平(ひら)

今の季節は冬鳥。繁殖地が大阪より北にあって、越冬地に冬を越すために大阪に来ている鳥たちがたくさんいます。カモの仲間がちょうど見頃。千里ニュータウンは池のある公園が多いということで、今日はカモを中心に資料を作りました。

奥居

季節の変わり目は、鳥の変わり目ということでもあるんですね。ちょうど今は冬から春への季節の移り目ということで、冬の鳥と春の鳥、両方の移り変わりが見えるのですね。

平(ひら)

はい。千里の池にいる鳥を中心に説明します。まず千里に池がどれだけあるか。千里北公園、藤白公園、はぎのき公園、榎ノ木公園、千里中央公園、千里南公園…大きな公園に、たくさん池があります。

奥居

千里ニュータウンは開発前からあった古い大きな溜め池はそのまま残して、公園の一部として取り込んでいますね。古い地図ではいっぱいあった小さな溜め池は埋めてしまいましたが、大きな溜め池として蓮間池、水遠池、檜ノ木池、春日大池、牛ヶ首池など。そういった所で野鳥を見ることができる。千里で野鳥を見るには、やはり水辺に行くと出会いやすいでしょうか？

平(ひら)

3月後半まではカモがいますので、カモが一番見やすい。初めて鳥を見ていただくには、一番良いかなと思います。

奥居

鳥は季節によって移り変わって行って、今がまさに変わり目ということですが、その中で「留鳥(りゅうちょう)」というグループは一年中同じところにいる鳥ですね。スズメやカラスも野鳥に入るのでしょうか？

スズメやカラスも野鳥

平(ひら)

そうですね。基本的には。嫌われていたりしますが、野鳥は野鳥。人間より先に生活していたものもありますから。(笑)

奥居

迷惑だと思うのはこちらの勝手に、向こうは人間を迷惑だと思っているかもしれませんね。カラスも何種類かいるんですね。

平(ひら)

ハシボソガラスとハシブトガラスは普通にいます。

奥居

千里にはカワセミもいるんですね。鮮やかなコバルトブルーが印象的です。

平(ひら)

カワセミはとくに冬にはよく見られます。千里の池なら、ほぼ全部の池で見られます。

奥居

冬鳥のグループは繁殖地が日本より北にあって、冬になると越冬で日本に来る鳥ですね。

平(ひら)

はい。繁殖地が今の季節でしたら北極や亜寒帯、寒帯といわれるシベリアに行くと凍りついているんです。だから餌が取れない。それで、暖かい所に来る。

奥居

大阪の冬もシベリアに比べれば暖かい。

平(ひら)

鳥は羽毛を着ていますからね。冬はあまり温度は気にならない。餌が取れるかどうかの問題です。そのかわり夏はぼかぼかしています。羽毛は脱げませんので。

奥居

冬鳥は、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ツグミ。夏鳥は、越冬地が南にある。日本より南というと東南アジアなど？

平(ひら)

はい。夏になるとやってきて日本で繁殖します。

奥居

典型的なものがツバメ。駅前でもよく見られます。千里では何月くらいから？

平(ひら)

早いと3月後半ですね。もうちょっとです。最初に見るのは、池の上が多い。ユスリカなどの虫が池の上を飛んでいるのを狙っていて、ツバメに気が付くことが多い。あとは去年、巣作りした家があればその近く。そこで気が付いて、そのうちにわりとよく見えるようになります。

次の「漂鳥（ひょうちょう）」は、平野部で越冬して、繁殖地は山に入るグループです。典型的なものはウグイス。3月後半になると、ホーホケキョの歌が聞こえ始める。その歌が上手になった頃には、ほとんど地元にいなくなる。ただ、千里緑地や公園の中でみどりが見えたりしてききたところには巣を作って繁殖しているところもあります。

奥居

その次のグループは、「旅鳥（たびどり）」。

平(ひら)

繁殖地が日本より北にあり、越冬地が南にある。このあたりは、通過するだけという鳥です。春に北へ行き、秋に南下する。その途中にこのあたりの公園や水辺で休んでいる。

奥居

次は、「迷鳥（めいちょう）」。

平(ひら)

台風などがあると、台風の中に入ったらどこを飛んでいるかわからなくなる。鳥は飛ぶ時に、体の中に磁石を持って方位を確認しながら飛ぶんです。それが狂ってしまうと、本当はこんなところにいるはずのない鳥が時々いる。通常ではない鳥です。

奥居

この写真は、おなじみのスズメですね。



平(ひら)

おなじみですからスズメは知っていると思われるかもしれませんが。一番覚えていただきたいのは、茶色い頭と黒いホクロがほっぺたにあります。これがスズメの特徴。日本からヨーロッパまで、ユーラシア大陸に広くいます。繁殖地であり越冬地。留鳥はどこにいても、あまり大きく移動しない。このあたりだと一年中います。

奥居

たしかによく見られます。でもずいぶん世界中にいるんですね。

平(ひら)

分布図では広がっていますが、濃淡はあります。西側にはスズメに近い種類の鳥がいる。イエスズメがヨーロッパにいて、そのイエスズメが日本のスズメのように人家の周りにいる。むしろ、私たちが見ているスズメは林にいる。

奥居

絵でも「雀のお宿」は林と一緒に描かれますね。

平(ひら)

あれはね、千里の周辺ではスズメよりムクドリが多いです。夜になるとムクドリが木の枝に集まっているのが見られる。それと同じようなかたちで、スズメも夜、寝る時に集まる所があるんです。繁殖期はもちろん巣にいますが、それ以外の季節、とくに秋から冬にかけては寝ぐらと呼んでいます。竹藪とかで一緒になって寝る。そういう所で、群れでいるのが見られます。

奥居

スズメもあらためてよく見てみると、なかなか面白いですね。次は、カラス。

平(ひら)

嫌われ者です。カラスは、ハシボソとハシブト。2種類います。くちばしの太さで呼んでいますが、くちばしから頭のところ、おでこが出ているかどうかが一番わかりやすい。



奥居

ハシボソ、ハシブトのハシは、くちばしのはし(嘴)ですね。

平(ひら)

ハシボソガラスは北方系。ハシブトガラスは南方系。唱歌に「カラスといっしょに帰りましょう」とありますね。あの歌に出てくるカラスは間違いなくハシボソガラス。どちらかというとなんかの田舎のような所に多い。

ハシブトガラスは、都会のビルを岩山に見立てたかどうかはわかりませんが、都会に強い。東京でカラスの問題を聞かれたことがあるかもしれません。東京では大阪と違ってカラスがいっぱい見られます。それは全部ハシブトガラス。千里は、僕が鳥を見始めた頃はハシボソガラスが多かったんですが、今はハシブトガラス。

奥居

千里も都会になってきたのでしょうか。

平(ひら)

都会になってきて、林が森になりつつある。公園でも木が大きくなったということもあって、ハシブトガラスが多くなってきています。

鳴き声は、ハシボソガラスはガァーガァー。ハシブトガラスはカーカー。あるいはアーアー。澄んだ声。枝に止まって鳴いている時にハシボソガラスはおじぎをします。ガァーとおじぎをします。ハシブトガラスは、おじぎをしない。同じようだけど、やっぱり違う。

カラスが繁殖して千里近辺に多くなりつつあるのは、最初は間違いなくゴミ問題だった。ところが今はどこの公園に行っても木が大きくなって、木の実もけっこうある。とくに万博公園では春はサクラの実を、夏はエノキとか。秋にはナンキンハゼ、冬にはクスノキを食べる。次々に餌を見つけています。そういうことで、どんどん増えている。

奥居

餌が安定してあるんですね。ゴミ出しの日によく見てみましょう。次の留鳥は、カワセミ。

平(ひら)

最初に鳥をカメラで撮ろうという人は、絶対にこの鳥からスタ



ートです。繁殖は、土壁に1mほど穴を開けてそこに営巣する。本当は少ないんですが、たとえば池で乾燥している所があって少し崖になっているとそこで繁殖します。今の季節は、もっと北のほうで繁殖しているものも含めてわりと多い。千里ニュータウンのほとんどの池で見られます。千里南公園では、カメラマンが常に集まっています。

奥居

「留鳥」はいつもいる。

平(ひら)

はい。この近くで。ニュータウンのどこで繁殖しているか、山手のほうや箕面で繁殖しているかもしれないが一年中近くにいます。

奥居

これは、ヤマガラとシジウカラ。



平(ひら)

繁殖分布は、ヤマガラは日本近郊が中心です。昔から神社のおみくじを引くと聞かれたことはありませんか？おみくじを引かせて、くわえてくるというのが昔からあったんです。それくらい人なつこい鳥。ただシジウカラに比べると、ちょっと遠慮がち。少し木が多いところじゃないとダメ。千里でも繁殖はしていますが、ちょっと数は少ない。たいしてシジウカラはどこにでもいる。千里のどこにでもいると思います。公園でも、冬になれば家の周りにちょっとした林があれば必ず巡回している。

奥居

水場じゃなくても、注意していれば見られる。鳴き声は？

平(ひら)

シジウカラはツツピーツツピー。ヤマガラはそれよりちょっと濁った声で。

「おしどり夫婦」の実態

奥居

次の鳥は綺麗ですね。

平(ひら)

オシドリです。千里では、千里中央公園の安場池。どれくら



いの数があるかなと見てきたんですが、40～50羽いると思います。ただ影に隠れています。人があまり好きじゃないから隠れてる。餌はどんぐり。千里中央公園の場合、どんぐりを投げると出てくる。集まってきます。

結婚式の祝辞で一生連れ添うという意味を込めて「おしどり夫婦」と言いますが、実はオシドリは一年ごとにペアを変えているんです。

奥居

そうなんですか。なんで、おしどり夫婦と？

平(ひら)

オスとメスが一緒にいる時は本当に仲良しに見えるんですよ。その時は仲良し。繁殖期にペアになると仲良し。ペアになると中部地方などの山地の川や池の近くの林で繁殖。繁殖後は、お母さんしか子供を見ていない。シビアなんですよ。

オスの写真しか出していませんが、カモの仲間はメスはみんな地味なんです。オスはみんな綺麗。綺麗なオスをメスが選ぶ。派手にしないと選ばれない。

奥居

そうしてみると、素敵な衣装もちょっと悲しく見えてきます。そういう鳥はけっこう多いんじゃないか。

平(ひら)

多いです。次はヒドリガモ。千里のほとんどの池で見られます。数も多い。アメリカヒドリは、まれに見られる。分布図は、ヒドリガモはユーラシア大陸一縁に繁殖地を持ち、越冬地もユーラシア大陸の南側に持っている。アメリカヒドリはアメリカ大陸。実はアメリカ大陸のヒドリガモなんです。顔が青いほう。ベーリング海峡の境目に繁殖地があるので、ヒドリガモの中にアメリカヒドリの血が混ざっていることも多い。顔が青い(みどり)ほうは千里では一年に1～2羽。今年も12月～1月まで桃山公園の春日大池にいた。その後は移動して、どこに行ったんやろと調べていると摂津市の市場池に移動しているみたい。今、行くとそこで見られます。いずれにしてもこのあたりでは、1～2羽しか見られません。



次はシロハラとツグミ。両方とも冬に一番ポピュラーな鳥。ツグミは昔から焼き鳥用に。シベリアで生まれて、渡りの時に能登半島へ直行するんですよ。山に張られたカスミ網に捕えられて、そのまま飲み屋さんに直行していたということが戦後かなりあった。今は禁止になりそんなことはないんですが、数



がものすごく減りました。しかし今の季節は、千里の公園どこに行ってもツグミもシロハラも必ずいます。

奥居

木の上に？

平(ひら)

地上にいます。渡ってきた後は木にいる。シベリアのように人がいない所から大阪のような人が多い所に来るわけですね。人見知りするんです。その頃はまだ木の実が残っていることもあり、食べる実がある間は木の上にあります。今頃になると木の実が少なくなって地上に降りてくる。

これはジョウビタキとルリビタキ。これも綺麗な鳥です。ジョウビタキは、わりとよく見られます。ルリビタキはちょっと暗い林で水が流れているところじゃないといないので少ない。ジョウビタキ、ツグミ、シロハラほどは見られないけど、いる。



ジョウビタキ



ルリビタキ

ここから夏鳥。ツバメは、3月下旬～4月始めになったら大阪にやってきます。フィリピンなど東南アジアに越冬していたものが来ます。巣作りして産卵・抱卵。7月頃までうまくいけば2回、卵を抱いてヒナを育てる。だけど、なかなかそうはうまくいきません。1回で育てるのは、だいたい5羽くらい。

カラスが増えて、ツバメの巣を毎日見てそろそろ巣立つかなという頃に…。それでツバメは朝早くから人がいる所しか出ない。

奥居

人に守ってもらおうと、人がいる所に巣を作る。だから駅前になる。

平(ひら)

はい。昔は、田んぼの害虫をツバメが食べてくれると大事にされた。いわゆる益鳥。そういうふうに守られていたんですが、今は百姓さんがいる家でも昔のようにツバメが来るからと窓を開けておくことはない。戸締りしている。外に巣を作ったツバメはみんなカラスにやられる。北千里駅も2年前には1階と2階、同じ所に巣があったのですが…。今は数が少なくなっていると思います。

次は、キビタキとオオルリ。キビタキは最近、繁殖地が広がってきている。万博公園や千

里緑地で繁殖するようになりつつあります。オオルリはあまり変わらない。

両方とも日本で夏に繁殖しているんだけど、ちょっと山のほうに行く。5月の大型連休の頃に、千里を通過します。千里の公園で見ようと思ったら連休の前後、4月20日～5月10日くらいの間にも両方とも見られます。



奥居

千里ニュータウンで珍しい鳥に出会うチャンスはありますか？

平(ひら)

コゲラという小さなキツツキは、千里の公園どこに行ってもいます。アオゲラはコゲラに比べて少し大きいキツツキ。これは、たまにしか見ない。万博でも数回しか記録がない。今年はそのアオゲラが千里第4緑地に来ているらしく、カメラを撮っている人がけっこうがんばっています。

野鳥の世界も変わっている

奥居

千里の中でカモの居場所が変わってきているということなのですが。

平(ひら)

2014～15年頃は、千里北公園の蓮間池が千里の池でカモが一番多く見られた池だったんですが、最近では10羽もいません。対して桃山公園が非常に多くなりました。こんなに変わるのかなど。2005年頃は桃山公園にはカモがいなかったから調査していないので、昔のデータはない。調査していないうちに増えていました。おそらく春日大池に水草のオオカナダモが繁殖したので、オオバンが増え、カモも増えたのだらうと思っています。

奥居

ツバメの巣の調査も、されているのですね。

平(ひら)

すいた市民環境会議で、1998年と2010年にツバメの巣を調査してマップを作りました。2010年には吹田市で3分の1になってしまっていた。1998年は259巣。2010年には74巣。豊中市もほぼ同じ傾向だらうと思います。

<https://www3.big.or.jp/~sskk/2010swallows.jpg>

奥居

わずか12年で3分の1に減ってしまった。

平(ひら)

カウントはしていないけど、おそらくカラスが増えたんだと思います。カラスが増え、山田や春日で田んぼがなくなってマンションなどになった。ツバメの巣材は、土と草と自分の唾。壁などに巣を作るんですが、田んぼがなくなって巣材がなくなってしまった。カラスに巣を落とされると新しく作れない。

一方万博野鳥の会で草原の鳥・林の鳥の変遷をまとめていますが、草原の鳥といわれている鳥がほとんどいなくなって、林の鳥が増えてきた。公園ができた時は植えた木が小さくて、林になる予定の所もまだ草原状態。ところが、木が大きくなってしまったら木陰になって草が消えてしまう。草はらが好きな鳥はダメになる。これは万博の例ですが、千里ニュータウンも同じ状況だろうと思います。

奥居

同じ場所の写真を見ても、同じ場所だと思えないくらい木が大きくなっています。とくにニュータウンは早く大きくなる木を植えたという話もありますし。

平(ひら)

桃山公園や春日大池に行くと、ヨシガモ、ヒドリガモ、オオバンがあちこちで仲良く泳いでいます。

この写真で手前のオオバンが水草をくわえている。その後ろでヒドリガモも水草をくわえている。ヒドリガモは潜れなくて水草を取れないので、オオバンが取ってきてくれるのを待っている。オオバンは潜れる。遠目で見ると仲良くしていると思いますが、実はオオバンが取ってきた餌を待っているのです。オオバンはヒドリガモの分まで取ってきてくれて、怒ることもない。



奥居

共存しているんですね。

平(ひら)

鳥のいるところは、「餌がある所」と「休める所」の2つが絶対条件なんですね。繁殖期だけは、繁殖する場所があるということも。餌は、木の実、花の蜜、木の芽、草の実、草の葉、水草など何でも。昆虫は、小鳥の繁殖期は蝶などの青虫などを子供に与える。

昔は、スズメは稲に来るから害虫だと言われていたんですが、繁殖期は必ず青虫を狙っています。栄養価が高くて早く大きくなるように。小鳥の場合は、ヒナから大人と同じ体になるまでわずか2週間くらい。育てる時には親は必死で餌を取ってこないといけない。

奥居

栄養価の高いものを集中的に取ってきて、あげてるんですね。

平(ひら)

魚も。カワセミは小魚を獲りますし、タカの仲間でも魚を獲るものがあります。タカの仲間は小鳥や鳩も。万博公園でオオタカが繁殖したことがあるんですが、オオタカはカラスとほとんど体の大きさが変わらない。そのオオタカがカラスを餌にしていた。自分の体と同じくらいのを仕留める。捕まえて水につけたり。

奥居

壮絶ですね。

平(ひら)

逆襲されることも。なんでも食べる。人の出すゴミを食べるのはカラスですね。カモがいると必ず人がパンを与える。それが良いこととは言わないのですが。貴重な鳥がいるということで、餌をやるのが常套化したんですが、それが良いのかどうか私にはわかりません。

鳥の楽しみ方

奥居

鳥を楽しむには、どうしたらいいですか。

平(ひら)

鳥の観察会に参加してください。カメラで写真を撮る方がいて、写真から入る方はそういう形になっているんですが、鳥のことをあまりよく知らないで写真に走られる。できれば鳥を知ったうえで写真を撮っていただきたいです。

奥居

写真を撮る前に、鳥を見てほしい。

平(ひら)

観察用具は、双眼鏡。倍率 100 倍というものがありますが、それは全然ダメ。8~10 倍が、双眼鏡を見るときにブレない。そこそこのものを買ってください。安いものではだいたい 2~5 万円ぐらいです。鳥の図鑑もあればいいですね。



奥居

あまり倍率が高いものを買ってしまうと、鳥を見つけるのが難しくなる？

平(ひら)

揺れるんです。双眼鏡を覗いていると、手ブレを起こすんです。カメラのシャッタースピードを遅くしたらブレるでしょ。それと同じなんです。8~10倍のを選んでいただいたら、最初だけでなくプロになっても使えます。

奥居

これが基本だということですね。

平(ひら)

そういうことですね。鳥の観察は、まず家の近くでやってみてください。探鳥会もあります。だんだん深くなります。鳥の観察からスタートして、さらによく見ていただくように。

もちろん鳥の写真も。絵を描く人もいますし、声や俳句をやる人も。俳句は季語に出きますから。木彫りの模型(カービング)をすることも。いろんな楽しみ方があります。

もうひとつは、文献がいろいろあります。学名・和名はどうだろうとか。世界の分布はどうだろうとか。たとえばヒヨドリは日本では普通にいますが、日本から出たらいないんです。そういうことを知るためにも世界的な分布を調べる。万葉集に鳥がけっこう出てくるとか。他の人にも教えてあげられるようになるし、鳥の調査と自然保護活動にもつながっていたらありがたい。

奥居

探鳥会や自然観察会などに参加すると、見方を教えていただける。

平(ひら)

はい。鳥を見る順番は、まず耳。まず聞いて、どこにいるか目で探して、その後双眼鏡。木の上にいる場合もあるし、地上にいることもある。できれば毎日、見た鳥を記録していただくと後々に環境が変わったことがよくわかる。調べて、声も知っていただく。

今の季節に見やすいのは、メジロ。メジロは甘党なので、花に来ます。ビワ、サザンカは初冬から正月頃。今はロウバイが終わってウメに来てます。それからツバキ、サクラ。サクラはどのサクラにも来ます。4月はサクラにいっぱい来てますので、メジロだけでも楽しんでいただければ。



奥居

今のようにコロナ禍で外出が自由にできない時に、街の中を歩き回っていただこうというのが今回のセミナーの狙いでもあります。健康維持と街の再発見の両方を楽しみながらやっていただければと思います。

最後に、平さんは一日にしてならずと言いますか、大変長く鳥についての活動をされています。もともとはサラリーマンで、ご病気になられたことがきっかけで鳥の観察を始められたのですよね？

鳥のおかげで健康になった

平(ひら)

結婚して3~4年の時に保険に入ろうと思って調べると、蛋白があると。尿に蛋白があるから、保険は違うよと。まだ30歳の頃。腎臓の組織を取って調べたら、糸球体の半分が死んでいると。腎臓は2つありますが、2つとも進行していると。原因はわからない。先生は、どんな臓器でも半分動いていたら普通に生活できる。半分以上悪くならなければいいと言われました。

幸い退院はできましたが、その時に先生が「あと10年したら腎臓移植か人工腎臓(今の透析)が実用化される。だから、それまで生きているように」と言われました。生きているようにと言われたのがつらくて精神的にまいってしまった。職場に理解があり、無理な仕事はしなかったのですが、精神的には落ち着かないことを何とかしたかった。神社仏閣めぐりもやってみたのですが、決め手にはなりませんでした。

結局、わかったことは歩くことだったんですが、限界がなかなか掴めなかった。そんなことをやりながら、ハイキングの道で鳥に出会った。これは、と思い野鳥の会に入って鳥を見始めた。1985年から万博公園の探鳥会に。それで今までのストレスから解放されました。

2000年頃からは、家内が主催しているストレッチ体操を。座ってする体操なので、無理しないんです。今はそこも手伝っています。30代、40代より今のほうが元気です。

奥居

今の平さんは、こんなふうにお元気でずっと過ごせるといいなと思う見本のような方。今日も自転車であられました。尊敬するかぎりですが、実はそういう物語があったのですね。鳥に助けられて、今はおいくつでしょうか？

平(ひら)

83歳です。

奥居

平さんを見習って、鳥を楽しみながら千里ライフを楽しんで過ごしていけたらいいなと思います。では参加者からの質問を受け付けます。

(参加者)

ハシボソガラスで、黒のなかに褐色の光沢が出ているものがあるが、あれは幼鳥？それとも成鳥ですか？

平(ひら)

鳥の色は羽に付いている色のほかに構造色といって、鳥に光が反射したり吸収したりすることで出てくる色があります。たとえばカモを見ていただいて、緑色の首を振る時にどん

な色に変わるかを見ると黒も出てくるし、青も出てくる。順光で見る時には緑色が出ますが、いろんな色が出てきます。カラスも普通時は黒ですが、藍色のような濃い色が出てくることもあります。たぶんそういうことだと思います。

もうひとつは色素の問題で、個体によっては白に近い色になっていることもあります。ですから鳥は順光で…自分の背中に太陽が当たる方向から見ると、美しいですよ。

(参加者)

千里第 4 緑地にカワウがいます。頭が白いのは幼鳥だと聞いたのですが、どれくらいの頃まで白いのですか？

平(ひら)

カワウの白いところが見えるのは、大人です。繁殖期の色です。繁殖期じゃない時は、頭の全体が黒です。

(参加者)

マンションの近くに、下から見るとテニスボールみたいな大きさの巣があります。2m ちょっぴりくらいの高さですが、何の鳥でしょうか？

平(ひら)

たぶんメジロだと思います。手のひらくらいの大きさでしょ。間違いなくメジロです。鳥の場合、くちばしから尾までのサイズが体長ですが、メジロは 12~13cm ですね。

(参加者)

今、アオジがちょこちょこ地面を歩いていることが多いですが、吹田市ではけっこう多いのですか？

平(ひら)

千里第 4 緑地には遊歩道があって、周りから隠れる所があります。人が来たら隠れて、人がいなくなったらまた出てくる。餌は草の実。イネ科の草の実なので、人間の目では見えません。地上に落ちている石のように小さな草の実(1mm もない)を彼らは石と区別しながら拾って食べています。

奥居

鳥を見るのにおすすめの時間帯はありますか？

平(ひら)

鳥の繁殖期は、たとえば小鳥類でいうと早いもので 4 月。普通だと 5~7 月。その 1 ヶ月ほど前からウグイスがホーホケキョとさえずり出す。オスがさえずる。メスはさえずらない。さえずる時期が繁殖期の 3 月後半から 6 月頃。中には朝早い時間だけさえずるが、昼になったらさえずらない鳥がいます。自然界では。

吹田には、昼でも夕方近くになっても、それなりにいろいろな鳥がいます。ただ鳥は飛ぶことを最優先にしているため体を軽くする。食べたものの消化をさっとして、すぐ出す。朝早いとお腹が空いている。その関係で、ある程度お腹がいっぱいになっている昼よりは朝のほうがよく鳥が動いているから見えやすいということはありません。

奥居

鳥の声を聞きながら、どこにいるのかわからないまま終わってしまうことがよくありますが、ちょこちょこ動くとわかりやすいですね。鳥の声をたよりに、動いているところはなにかと探せば、初心者でも鳥と友達になれる機会があるのですね。

平(ひら)

その時に双眼鏡を1つ持っている、肉眼とは全然違う世界になりますから。双眼鏡で間違えないようにしてほしいのは、8倍というのは大きさが8倍に見えるのではなく、距離が8分の1に縮まった状態で見える。8~10倍だと手ブレしませんし、手で持つにはおすすめです。

奥居

今日は平さんから興味深いお話をじっくりとお聞かせいただきました。ありがとうございました。

このシリーズは全3回。2回目は3月13日(土)に千里の古い地名に関して、3回目は3月21日(日)に千里の公園などの面白いアートについてお話をうかがいます。

千里ニュータウン情報館は、南千里駅前ニュータウンプラザの2階にあり、千里ニュータウンの貴重な資料をたくさん取り揃えております。関心がおありの方はぜひともお越しください。また千里ニュータウンに関する貴重な資料や写真などをお持ちの方は、ぜひともお知らせください。

それでは、本日は大変ありがとうございました。

主催：吹田市立千里ニュータウン情報館
運営企画：一般財団法人 千里パブリックデザイン
後援：吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議
文字起こし：AKIRA text create 山本晶